

水の記憶

卒業設計賞



吉崎 萌
Yoshizaki Moe

指導教員：渡辺 康



01. CONCEPT

地域の人たちに90年間親しまれてきた春にはサクラとツツジが咲き、緑豊かな場所ここには風景として人々に共有されてきた円形をした独特な建物と緑の土手の構築物産業建築遺産「和田堀給水所」がある。この和田堀給水所を解体する計画がある。コストと容量を重視した新たな給水所に変わろうとしている。



1924年から現在



2022年 完成予定

02. SITE

東京都世田谷区大原2丁目京王線の代田橋駅から徒歩2分、たくさんの緑が広がる住宅街に囲まれた敷地。この場所に飲み水を送水してくれる配水池があり、東村山浄水場、境浄水場、三郷浄水場からの送水を世田谷区、渋谷区、目黒区、港区に配水する重要な役目を担っている。



そこで円形の独特のシルエットをした一号配水池を用途変換し、給水所の機能を隣の施設の地下に移設することで水の美術館にしてみよう。長い時間風景として人々に共有されてきた建物を人々にとってもっと身近に感じるものに再構築することで、100年先にもこの地域に存在し続けることを提案する。

03. PROGRAM

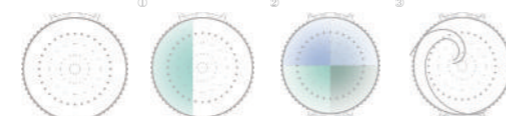
配水池のコンバージョンである。配水池を水の美術館にすることで、私たちの飲み水が蓄えられていた記憶を再構築しつつも、この気配を大切にすることができる。水の美術館では水を展示する。水の特性を活かすとともに、この建物の特性を活かした展示がある。この美術館はこの場所には水があったということを語りつぐことができる。水を展示する美術館である。また美術館という非日常だけでなく、日々の生活の中でこの場所を利用し、この建物と水を感じることができるような用途を用意する。円形の建物の中に水の美術館、そしてその横にある緑の土手の構築物の上に乗っている水を見ることのできるカフェをつくる。この建築自体に目的のある人もない人も、様々な人が行き交う場所にしたい。

04. COMPARISON OF THE SCALE



国立代々木競技場 東京ドーム 幕張メッセ 日本武道館 和田堀給水所

05. DIAGRAM

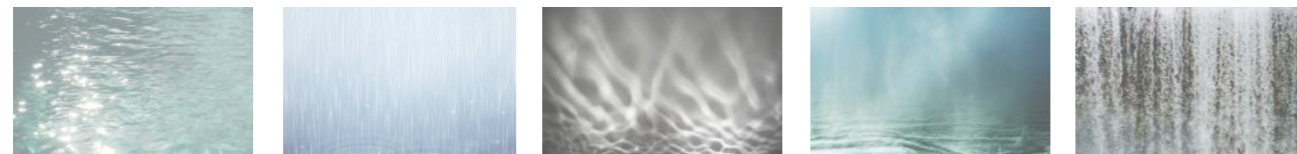


この建物の特徴を読み取り、次の3つの操作を行う。
① 池をつくる。 ② 水の作品をちりばめる。 ③ 2枚の壁を入れる。



水の展示空間

このような暗闇で柱のたくさんある大空間は日常ではなかなか回らないだろう。そこでこの非日常の空間で私たちが普段当たり前に感じている五感を通じて水の大切さを訴える。例えば自然を享受する開口が空いており、晴れている日は大きな池は開口からの日差しを受けキラキラと反射する。雨の日、たくさんの開口から雨と光が降り注ぎ、風が入ってくると雨の香りがする。柱や天井に映し出される波紋をぼんやりと眺め、水のせせらぎの音を聞き入り、水壁に触れてみることもできる。季節や時間によってさまざまな空間になり、またここに訪れたいと思ってもらえる変化のある空間である。



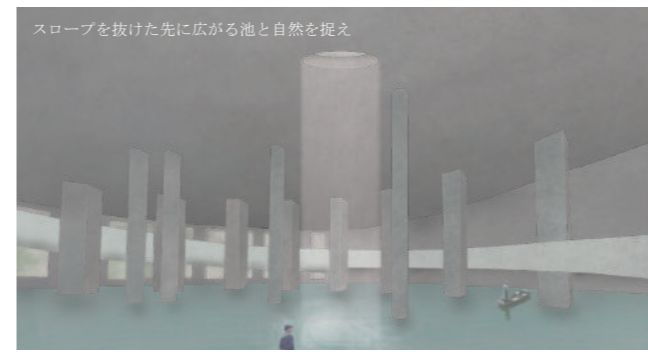
水面 雨 波紋 霧 滝

作品概要

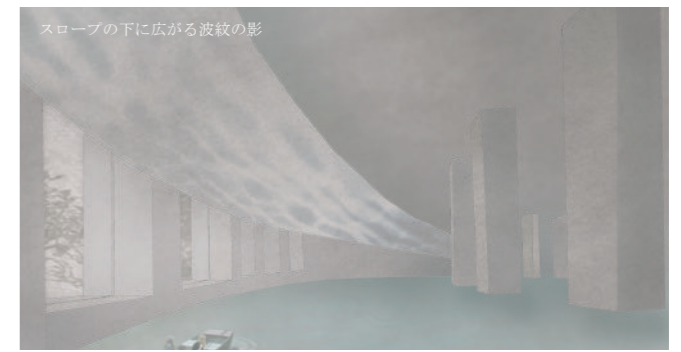
和田堀給水所は円形をした独特な建物と緑の土手の構築物でできた築造約90年の産業遺産である。現在、和田堀給水所を解体する計画がある。しかし解体を惜しむ声もあり、そこで円形のシルエットをした一号配水池をコンバージョンし、給水所の機能を移設することで建物を維持し、水の美術館として再生する計画である。

卒業設計を振り返って

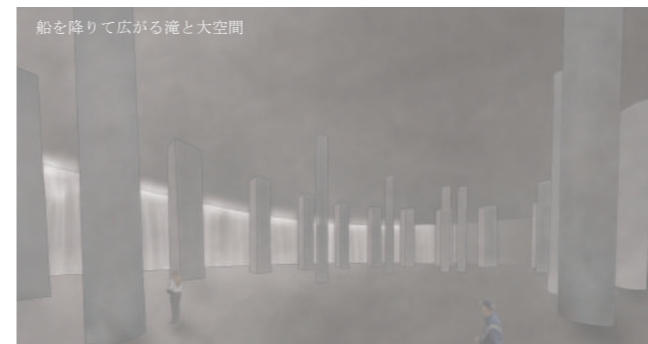
4年間の集大成としての卒業設計と自分なりに向き合う事が出来てよかったです。思うように進める事が出来ず辛いこともたくさんあったけど、なんとか形にすることができました。一緒にがんばってきた友達やたくさんのアドバイスをくださった先生方、お手伝いしてくれた後輩、応援してくれた家族に感謝したいです。



スロープを抜けた先に広がる池と自然を捉え



スロープの下に広がる波紋の影



船を降りて広がる滝と大空間



霧の中のスロープ